

略數百年ヲ經テ形大ナル者諸州ニアリ勢州山田ニ近キ山中及ビ江州八幡邊ノ山中ニ大蟾アリト云又寛政七年六月加州小松ノ近邊崩レテ丈餘ノ死蟾出タリト云又和州大瀧山中ニ大サ六尺餘ナル者アリ背上三人ヲ乗ベシト採藥記ニ云ヘリ○下略

〔今物語〕小侍從が子に法橋實賢と云もの有けりいかなりける事にか世の人は是をひきがへるといふ名をつけたりける法眼をのぞみ申て

法の橋の玄たに年ふるひきがへる今ひとあがりとびあがらばやと申たりければやがてなされにけり

### 〔江戸塵拾二〕大墓

松平美濃守下屋敷本所に有方三町餘の沼あり此中に住む一年故有て此沼を埋べきよし被申付近々彌埋べき沙汰有しに或日上屋敷の玄關にけんぼう小紋の上下著たる老人一人來りて取次の士にいふ様私儀御下屋敷に住居仕る墓にて御座候此度私住居の沼を御埋被成候御沙汰有之段奉承知候付參上仕候何卒此儀御止被下候様に奉願上候旨を申述候其段可申聞とて取次の侍退座して怪しき事に思ひ襖の隙より覗きみるにけんぼう小紋の上下と見へしは墓が背中のまだらふなり大さは人の居りたるが如く兩眼かゝみの如し即刻美濃守へ申達ける處口上之おもむき聞届候よし挨拶あられ沼を埋むる事を止られける元文三年の事なり

### 河蝦

〔物類稱呼動物〕蝦蟆略○中按に但馬國に一種かじか河鹿とよぶ有谷川の流にすみて濁る水にはすまぬ

もの也其聲鹿に似たり故に河鹿と呼魚に同名有別物也常の蛙の群る中へ放す時は則常の蛙聲をとむとなり肥州にてはこれをかはづと呼常の蛙をばかへると呼也古歌に蛙なくよしの、川の瀧の上にとよみ又みわ川の清き瀬など詠る類是皆山蛙也常の蛙は聲かまびすしく山蛙は聲清く寂しきものにて鹿の聲ともきこえまた鳥の鳴くともきこゆる物なりとぞ無名